

# 豊庄だより



第 643 号 2020 年12月7日

ここ 20 年近く 12 月といえば、飯倉校区人権尊重推進協議会の「人権まつり」のとりくみで大忙しの時でした(発表のときだけでなく発表の原稿をまとめるのに10月頃から取り掛かっていましたからおよそ2か月かかっていました)。

しかし、今年はコロナウィルス感染拡大の影響で、フィールドワークや学習会も中止、縮小され、今年の「人権まつり」は、人権標語の表彰とアコーディオン演奏の鑑賞会になりました。会場の飯倉小学校の体育館の椅子もソーシャルディスタンスを保ち、これまでの 10 分の1程度。換気のため窓を開け放し、時折入ってくる冷たい風を味わいながらの会となりました。人権標語は原中学校と飯倉小学校の生徒・児童の作品で、人尊協のメンバーが選考し、今日はその表彰の日でした。司会者が順に名前とその子の作った標語を紹介し、一人ひとりでステージで賞状を受け取っていくのですが、「あれっ！どこかで聞いた名前だ〜」と、あわててその子が座った

福岡市早良区南庄 2-26-13  
社会福祉法人林生会豊庄保育園  
園長 西尾 達



椅子の背に書かれた名前を見ました。卒園児のKさんでした。会が終わって、話に行くとお父さんも一緒でした。今年、5年生。立派になりました。選ばれた標語を紹介します。「いじめゼロ ひとりぼっちをなくそうね」でした。表彰のあとのアコーディオン演奏は、見事でした。いわつなおこさんという福岡市出身(姪浜小卒)の演奏者で、福岡市や北九州市で演奏活動をしていると紹介されました。この時期は、地球の裏のアルゼンチンで演奏活動をするのが多かったのですが、今年はコロナ禍で行くことができず、「人権まつり」での演奏会が実現したようです。演奏曲はアンコールも含め6曲。左手で伴奏を、右手でメロディーを、それだけでなくメロディーはスイッチを入れると高い音になったり低い音になったり、変幻自在。左手でもメロディーが弾けるという魔法のような楽器でした。あつという間の演奏会でしたが、プロの弾くアコーディオンの迫力に圧倒されました。

コロナ禍ですべてができなくなっている中で、何かできることはないかと取り組んだのが今回でしたが、行ってよかったと思っています。ただちょっと気になることがあります。それは、この会を行ったのは12月5日で、前日の12月4日は、中村哲さんの命日でした。会のはじめとおわりに1回ずつ主催者によるあいさつがあったのですが、一言も哲さんのことについて話しませんでした。意識したのか意識(関心)がなかったのかわかりませんが、「人権」を謳った会で、触れてほしかったと思いました。12月に亡くなった人でもうひとり忘れてはならない人に、ジョン・レノンがいます。コロナ禍の中で人々が分断と差別に直面し、それも貧しい国や階層に顕著に出ている中、彼の歌「イマジン」が再び脚光を浴びています。見事なアコーディオン演奏で、「イマジン」を聞くことができれば最高だったのと思いました。ボブ・ディランがノーベル文学賞(2016年)をもらって話題になりましたが、中村哲さんやジョン・レノンの存在は彼に匹敵すると思っています。

毎年ステージに漢字一字を掲げています。今年は、「笑」でした。



例年ならば、体育館は人で溢れていましたが・・・仕方ありません。